

修士論文（要旨）

2020年1月

「日本のポップカルチャー」が中国の日本語学習者に与える影響  
ーライフストーリー・インタビュー調査の結果からー

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

218J3006

高 シン

Master's Thesis (Abstract)

January 2020

The Influence of Japanese Popular Culture on Japanese Learners in China :  
From the Results of a Life Story Interview Survey

GAO XIN

218J3006

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

## 目次

### 第1章 研究背景と目的

### 第2章 先行研究

#### 2.1 「日本のポップカルチャー」は

#### 2.2 第二言語教育における motivation とは

#### 2.3 第二言語教育における動機づけの分類

#### 2.4 「日本のポップカルチャー」と日本語学習者の学習動機との関わり

#### 2.5 「日本のポップカルチャー」と日本語学習の開始との関係

### 第3章 調査概要

#### 3.1 調査協力者概要

#### 3.2 インタビュー調査概要

#### 3.3 分析方法

##### 3.3.1 ライフストーリー

##### 3.3.2 複線経路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model)

### 第4章 調査結果および分析

#### 4.1 協力者 A のライフストーリー

##### 4.1.1 幼少期——「日本のポップカルチャー」への接触

##### 4.1.2 大学での日本語学習——日本語学習開始

##### 4.1.3 台湾での学習時期——日本へ留学すると決意した

#### 4.2 協力者 A の TEM 図

#### 4.3 協力者 B のライフストーリー

##### 4.3.1 幼少期——「日本のポップカルチャー」への接触

##### 4.3.2 大学での日本語学習——日本語学習開始

##### 4.3.3 仕事時期の日本語学習——日本で働きたい

#### 4.4 協力者 B の TEM 図

#### 4.5 協力者 C のライフストーリー

##### 4.5.1 幼少期——「日本のポップカルチャー」への接触

4.5.2 日本語学習期

4.5.3 日本語学習継続

4.6 協力者CのTEM図

## 第5章 考察

5.1 協力者A

5.2 協力者B

5.3 協力者C

5.4 日本語学習と「日本のポップカルチャー」との関わりについて

5.4.1 幼少期の家族や友人との思い出

5.4.2 「日本のポップカルチャー」を日本語学習の開始動機とするために必要な要因

5.4.3 「アニメ・マンガを活用した日本語教育」の可能性

5.4.4 ポップカルチャーを通して日本語を独習する可能性

## 第6章 まとめと今後の課題

参考文献

添付資料

近年、「日本のポップカルチャー」に関心があり、日本へ留学に来る中国の若者が増えており、アニメやドラマを通して日本語を独学し、日本企業に関わる会社に勤めている中国の若者も多い。筆者の周りの友人やクラスメートなどの中にも、幼少期から現在までの期間に「日本のポップカルチャー」に接触した経験、過去の人生の道の選択時に「日本のポップカルチャー」が与えた影響、現在の自己形成と「日本のポップカルチャー」との関わりなどを語る者も多い。したがって、「日本のポップカルチャー」は学習者の学習時期だけに影響を与えるのではなく、個人の人生や価値観の形成などにも影響を与え得ると言える。このような中国の日本語学習者と「日本のポップカルチャー」との関わりについての研究は最近よく目にするが、学習者の幼少期から成人期までにわたって「日本のポップカルチャー」が中国の日本語学習者に具体的にどのような影響を与えているのかを分析した、学習者の学習動機との関わりについての質的な研究は数多くない。

そこで、本研究では「日本のポップカルチャー」が好きな中国の日本語学習者に着目し、彼らの日本語学習と「日本のポップカルチャー」との関わりを探ることを研究目的とし、以下の二つの課題を設定した。RQ 1. 幼少期から既に「日本のポップカルチャー」に接触していた中国の日本語学習者が「日本のポップカルチャー」とどのように関わったのかを明らかにする。RQ 2. 日本語教育の観点から、「日本のポップカルチャー」と日本語学習がどのように関係していたかを質的に明らかにする。

本研究では、日本語学習者の人生における「日本のポップカルチャー」との関わりを明らかにすることを旨とする。ライフストーリー研究法を用いた。調査協力者は、「日本のポップカルチャー」が好きであり、日本語を学んでいる中国出身の3名である。インタビュー調査は、2019年5月から2019年10月にかけて行い、中国語で実施した。また、調査協力者の語りに基づいてTEM図 (Trajectory Equifinality Model) を作成した。

ライフストーリーの分析から以下のような結果が得られた。1) 幼少期の家族や友人との思い出は調査協力者3人の日本語学習プロセスにおいて学習開始の一つの要因となり、「日本のポップカルチャー」への興味を継続させる要因ともなっているということがわかった。また、幼少期の家族や友人とのポップカルチャーに関する思い出は、日本語学習者の学習プロセスにおいて日本語学習の開始を促す要因となったと考えられ、家族や友人との関係を構築することにも、ポップカルチャーが独特な役割を担っていたといえる。2) 調査協力者3人の日本語学習の開始動機は同じであり、「日本のポップカルチャー」に接したことによって、「(ポップカルチャーを楽しむには日本語がわからないとつまらないから、) 日本語がわかるようになりたい」という自己認識が生まれ、また「日本語が知りたい」という好奇心を持ったことが彼らの日本語学習を開始させた動機となっていることがわかった。3) 日本語独習者としての協力者Cには、日本語学習の過程において「日本のポップカルチャー」への関心が途切れることもなく保たれ、自身から積極的に学習方法を改善し、日本語学習を仕事と結びつける姿勢が見られた。ポップカルチャーを通して日本語を独習することができるかどうかについて、その一例を示すことができたと思われる。

最後に、「日本のポップカルチャー」を通して日本語を独習する可能性について検討した。留学生が急増しつつある中、少子高齢化が進む日本では、今後は日本語教師不足が深刻になる可能性があり、ポップカルチャーを通して日本語を独習する可能性について検討することは、今後の日本語教育の発展のために意義のあることであろう。したがって、今後は世界中で増え

つつある調査協力者Cのような「日本のポップカルチャー」を通して日本語を独習している学習者を研究対象の中心とし、彼らの学習方法や学習動機には非独習者と比べ、どのような特徴があるのかについてより深く分析することも必要だと考える。

## 参考文献

- 荒川歩・安田裕子・サトウタツヤ (2012) 「複線径路・等至性モデルの TEM 図の描き方の一例」  
立命館人間科学研究. 25, 95-107
- 小野打恵 (2006) 「世界を駆ける変化の兆し」 中村伊知哉・小野打恵 (編著) 『日本のポップパワー-世界を変えるコンテンツの実像』 第 2 章、日本経済新聞社、pp. 55-82
- 岡田涼 (2010) 「自己決定理論における動機づけ概念間の関連性」 パーソナリティ研究, 18 (2), 152-160.
- 外務省 (2006) 「『ポップカルチャーの文化外交における活用』に関する報告書」
- 郭俊海・全京姫 (2006 「中国人大学生の日本語学習の動機づけについて」 『新潟大学国際センター紀要』 2, 新潟大学, 118-129
- 河上幸子 (2010) 「ジャパンポップから広がるコンタクト・ゾーン: サンフランシスコ日本町をめぐり文化創造とマンガ・アニメ産業」 『京都大学学術情報リポジトリ』
- 経済産業省 (2012) 『クリエイティブ産業の海外展開強化に向けた調査報告書』
- 国際交流基金 (2005) 『海外の日本語教育の現状-日本語教育機関調査・2003 年-(概要)』 国際交流基金日本語国際センター
- 国際交流基金 (2010) 『「2009 年海外日本語教育機関調査結果」 結果 (速報値)』  
[http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/news\\_2009\\_01.pdf](http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/news_2009_01.pdf) 国際交流基金
- 近藤裕美子・村中雅子 (2010) 「日本のポップカルチャー・ファンは潜在的日本語学習者といえるか」 国際交流基金日本語教育紀要, (6), 1-7.
- 桜井厚・小林多寿子編著 (2005) 『ライフストーリー・インタビュー質的研究入門』 せりか書房
- サトウタツヤ (2009) 「TEM ではじめる質的研究—時間とプロセスを扱う研究をめざして」 誠信書房
- 櫻井孝昌 (2010) 『日本はアニメで再興する-クルマと家電が外貨を稼ぐ時代は終わった』 アスキー新書
- 瀬尾匡輝 (2011) 「香港の日本語生涯学習者の動機づけの変化-修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から探る」 日本学刊, 14, 16-39.
- 高橋伸一 (2008) 「《ポップカルチャー》という言葉と操作されたそのイメージの流行 (流行り (ブーム) )」 『ポップカルチャー研究』 2 (1) 、 pp. 4-33
- 田島弘司 (2017) 「アニメを活用した日本語教育の可能性」 上越教育大学研究紀要, 36 (2) , 357-367.
- 塚田守 (2008b) 『ライフストーリー・インタビューの可能性』 「椋山女学園大学研究論集 (社会科学篇)」 第 39 号, 1-12 頁
- ドルニエイ、ゾルダン (著)、米山朝二、関昭典 (訳) (2005) 『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』 大修館書店
- ドルニエイ、ゾルダン (著)、八島智子・竹内理 (監訳) (2006) 『外国語教育学のための質問紙調査入門』 松柏社
- 中村伊知哉 (2003) 「ポップカルチャー政策概論」 スタンフォード日本センター
- 中村伊知哉・小野打恵編著 (2006) 『日本のポップパワー』 日本経済新聞社

- 根本愛子(2011b)「カタールにおけるにおける日本語学習動機に関する一考察—LTI 日本語講座修了者へのインタビュー調査から」『一橋大学国際教育センター紀要』2, pp. 85-96, 一橋大学国際教育センター
- 根本愛子(2014)「日本語学習動機におけるポップカルチャーの役割:カタールを事例とした量的および質的研究」一橋大学言語社会研究科博士論文
- 文化庁(2019)『国内の日本語教育の概要』.文化庁文化語国語課
- 三國喜保子・谷口美穂・岩下智彦・川崎タルつづ・張世襲 & 岩本尚希(2011)「日本語学習者の教室外におけるメディア使用の実態:6カ国におけるアンケート調査から」桜美林言語教育論叢, 7, 147-162.
- 守谷智美(2002)「第二言語教育における動機づけの研究動向」『言語文化と日本語教育』、315-329
- 守谷智美・加賀美常美代・楊孟勳(2011)「台湾における日本のイメージ形成—家庭環境、大衆文化及び歴史教育を焦点として」『お茶の水女子大学人文科学研究』7, pp. 73-85
- 文部科学省(2019)「「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について」
- 安田裕子(2005)不妊という経験を通じた自己の問い直し過程—治療では子どもが授からなかった当事者の選択岐路から. 質的心理学研究, 4, 201—226
- 安田裕子・サトウタツヤ(2012)『でわかる人生の径路 質的研究の新展開』誠信書房
- やまだようこ(2000)『人生を物語るライフストーリーの生成』ミネルヴァ書房
- Au, S. Y. (1988). A critical appraisal of Garner' s social-psychological theory of second language learning. *Language Learning*, 38, 75-100.
- Brown, D.H. (2000) *Principles of language learning and teaching. 4th edition*. White Plains, NY: Addison Wesley Longman.
- Crookes, G., & Schmidt, R.W. (1991). Motivation: Reopening the research agenda. *Language Learning*, 41. 469-512.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination*. New York: Plenum.
- Dörnyei, Z. (2001). New themes and approaches in second language motivation research. *Annual Review of Applied Linguistics*, 21, 43-59.
- Gardner, R.C., & Lambert, W.E. (1972). *Attitude and motivation in second language learning*. Rowley, MA: Newbury House

